

[抄録様式]

<p>公益財団法人 8020 推進財団 平成 27 年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録</p>	
1.	事業名：唾液及び歯肉溝液を用いた若者の歯肉炎罹患実態に関するパイロット調査
2.	申請者名：公益社団法人香川県歯科医師会 会長 豊嶋 健治
3.	実施組織：公益社団法人香川県歯科医師会 国立大学法人徳島大学大学院医歯薬学研究部予防歯学分野
4.	<p>事業の概要：</p> <p>若者の歯肉の炎症状態の客観的な検診システムと歯科保健指導プログラムの試行を目的に、香川県内の専門学校 1～3 年生と私立高校 2 年生の計 279 名（男性 78 名，女性 201 名）を対象に，唾液と歯肉溝液の歯肉炎罹患状態に関連するバイオマーカーの検査，および口腔清掃習慣に関して，パイロット調査事業を実施した。</p>
5.	<p>事業の内容：</p> <p>平成 28 年の 1 月と 2 月に，香川県内の専門学校生（香川県歯科医療専門学校衛生士科 1，2，3 年生と技工士科 1，2 年生）174 名（男性 17 名，女性 157 名）と高校生（香川県大手前高松高等学校 2 年生）105 名（男性 61 名，女性 44 名）の合計 279 名を対象として本事業を実施した。唾液と歯肉溝液検体の採取にあたっては，飲食や口腔清掃などの影響を排除するよう特別の配慮をした。まず上下顎の左右小臼歯間の唇側歯頸部全体から歯肉溝液検体を採取し，次いで 3 ml の蒸留水を 10 秒間軽く洗口し，容器に吐出させて唾液検体を採取した（洗口吐出液）。歯肉溝液中の α-1 アンチトリプシンとラクトフェリンを，唾液中の遊離ヘモグロビンと乳酸脱水素酵素を測定した。遊離ヘモグロビンについては，唾液潜血検査キットによる測定と，臨床検査会社での機器による測定の 2 種の方法で測定した。また，歯磨きとデンタルフロスの頻度について，質問票調査を行った。</p>
6.	<p>実施後の評価（今後の課題）：</p> <p>現在の歯科臨床や歯科健康診断において，歯肉の健康状態は，歯垢付着の状況や歯肉の炎症所見を視診と探針を用いた触診により判定されているが，唾液検査や歯肉溝バイオマーカー検査によって得られる数値データは，歯肉の健康状態や生活習慣上の問題を，現行の方法に比べてより簡便かつ客観的に判定する指標として，また青少年への歯科保健教育や保健指導プログラムを推進するための適切な教材を提供するシステムとして，今後の可能性が示唆された。また本事業で得られたデータを集計・分析することで，これまで明らかにされていなかった若者の唾液や歯肉溝バイオマーカーの分布や正常値範囲を知る手がかりが得られた。今後はさらに調査対象を広げ，対象者数を増やして分析を進めることで，若者の唾液や歯肉溝バイオマーカーの正常値範囲を明らかにし，生化学的検査値に基づいた歯肉の健康状態の客観的な評価システムの確立へつながるものと期待される。</p>